



## プラスチック（製品）は何からどうやってつくるの

### 合成樹脂から

「松やに」のように、針葉樹などから出る液（やに）を、樹脂といいます。この天然の樹脂に似て、人工的につくられた樹脂を、合成樹脂といいます。よく耳にするポリエチレン、塩化ビニール樹脂、メラミン樹脂などは合成樹脂です。

電気製品、おもちゃ、文房具、食器など、プラスチックでできている物がたくさんあります。プラスチック製品は、合成樹脂からできています。

1910年、世界で初めて、プラスチックの器具が、ベルギーのベークランドという人によってつくられました。それは、石炭酸というものからベークライトという合成樹脂をつくり、この合成樹脂からプラスチックの器具をつくりました。

### 石油を原料にしてつくる

ベークライトがつくられた後、石炭を原料にして、ナイロンやビニロンがつくられるようになりました。さらに、石油を原料に、ポリエチレンや塩化ビニールなどの合成樹脂がつくられるようになりました。現在、プラスチックは、ほとんどが石油を原料としてつくられています。

プラスチックをつくるには、まず、原料の石油や天然ガスから、プラスチックのもとをつくります。次に、プラスチックの特徴を出したり、色をつけたりするために、薬を加えます。その後、熱を加えてやわらかくし、それを型にはめて、いろいろな製品をつくります。石油からつくられたプラスチックは、値段が安くてとても便利です。ところが、プラスチックは、自然の中に捨てられても分解しないので、ごみとして、いつまでも残ることになり、大きな問題になっています。（監修・小川 格）

